

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川上小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

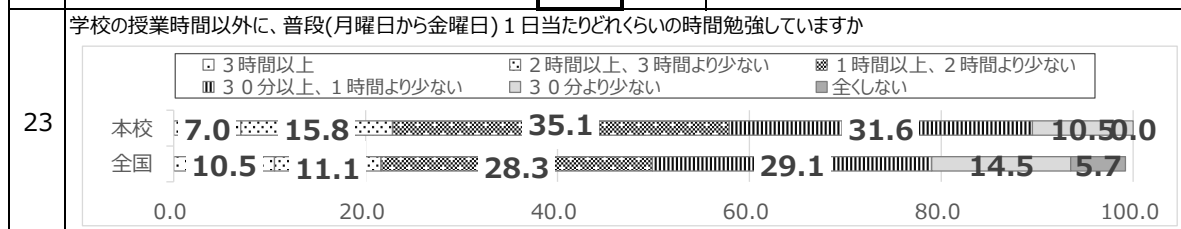
質問 番号	質問事項	本校 （％）	全国 （％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	89.5	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	91.2	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	96.5	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎主体的・対話的な学びが定着している。課題解決に向けて自ら考えたり、話し合いを通して考えを深めたりする項目が全て全国平均を上回っており、協働的な学びが定着している。
- ◎学習を振り返り、自ら学びを調整する力が育っている。学び方を工夫したり、学習を振り返って次につなげたりする項目が全国平均を大きく上回っており、主体的な学習態度が育っている。
- 家庭学習のさらなる充実が必要である。「全くしない」児童はいない一方、「3時間以上学習する」児童の割合は全国を下回っており、学習の質や時間の向上が課題である。
- 主体的な学びをさらに深める必要がある。主体的・対話的な学びは定着しているため、今後は自ら課題を設定し、探究的な学び活動の充実を図っていく必要がある。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	93.0	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	91.3	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	93.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	86.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	91.2	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.8	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自己肯定感や幸福感が高い。「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」「幸せな気持ちになることがある」などの項目が全国平均を上回っており、安心して学校生活を送れている児童が多い。
- ◎「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくしたい」が全国平均を上回っており、将来や地域社会への関心が高い。
- 人の役に立ちたいという意識の向上が必要である。「人の役に立つ人間になりたい」の割合が全国平均を下回っており、自己有用感を高める取り組みの充実が必要である。
- 地域への思いを行動につなげる機会が必要である。地域や社会への関心は高いものの、その思いを実際の行動や体験につなげる活動をさらに充実させることが望まれる。

《質問領域：向社会的性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	92.9	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	82.5	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

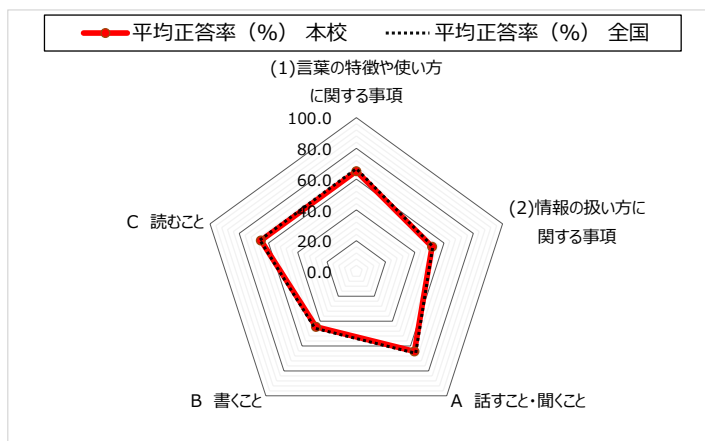
○本校の調査結果から、児童は主体的・対話的に学ぶ姿勢や、自ら学びを振り返り調整する力、自己肯定感が育っていることがわかりました。今後も、一人一人が自分の考えを表現し、友達と協力しながら学ぶ学校づくりを進めるとともに、学習を振り返る活動を充実させ、主体的に学び続ける力を育てていきます。また、「人の役に立ちたい」という意識は全国平均を下回る結果でした。係活動や異学年交流、地域との交流活動など、児童一人一人が活躍し、「自分は役に立てた」と実感できる場を充実させ、自己有用感を高める教育活動を進めていきます。

【ご家庭では】

○ICT機器が身近な時代だからこそ、自然の体験や地域での活動、お手伝いなど、実際に見たり、触れたり、経験したりする機会を大切にいただければと思います。様々な体験は、学びへの意欲や豊かな心を育むことにつながります。また、お子さんとのコミュニケーションの時間を大切にし、授業や学校生活での出来事について話を聞いていただくことで、安心感や自己肯定感を育むことができます。さらに、翌日の持ち物や学習用具の準備をお子さんと一緒に確認することで、自分で準備する習慣や主体的に行動する力の育成にもつながります。引き続き、ご家庭でのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	65.2	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	51.8	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	64.3	65.8
	B 書くこと	44.6	45.7
	C 読むこと	65.2	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	59.7	61.9
短答式	59.8	62.6
記述式	59.8	54.9

結果 ※◎ (強み) 、●課題

◎各領域とも全国平均をやや下回っているが、ほぼ同じ傾向である。問題形式別では、記述式が全国平均を4.9ポイント上回っている。無回答率は低く、粘り強さ、最後まで回答する速度を兼ね備えて取り組んでいる。自分の考えが伝わるように、構成を考えたり資料を活用したりして表現することができるかを問う問題の正答率が高かった。

●漢字は書けるものと書けないものとの差が大きく、普段使う頻度の低いものは定着していないと思われる。また、比喩の表現の工夫に気付くことができるかどうかを問う問題の正答率が低かった。比喩や反復などの文章表現の工夫が苦手であるという結果であった。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	89.3	80.8
3一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる。	85.7	76.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	30.4	45.2
1二(3)	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる。	55.4	65.2

調査結果を受けて

【学校では】

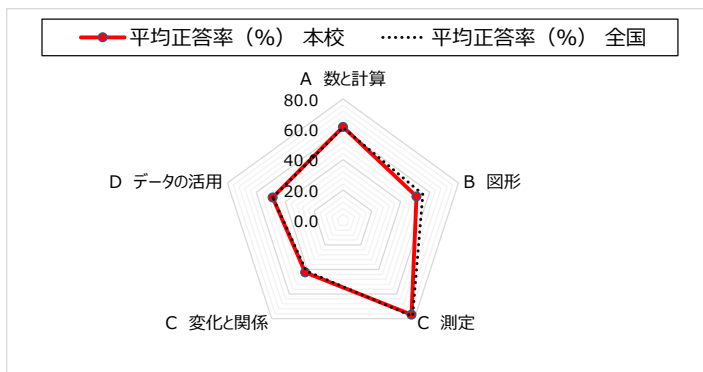
- 漢字の力を育成するために、学習した漢字を日頃から使う指導を行う、宿題の出し方の工夫（漢字ノート、語彙プリント、タブレット学習など）をする、ゲーム形式を取り入れながら学習するなど、多様な方法で取り組んでいます。
- 比喩や反復などの文章表現を理解するために、読書量を増やしたり、選書の工夫を行ったりします。また、言葉集めなどで語彙を増やし、文章を書く際にその語彙を取り入れる、授業の中でコミュニケーションをとる場面を増やすなど、様々な表現に触れる機会を増やしていきます。

【ご家庭では】

- 語彙を増やしたり、表現を豊かにするために、様々な経験や日々のコミュニケーションの中で、言葉と場面、言葉と気持ちなどを繋ぐ会話を取り入れていただければと思います。
- 家庭学習に集中して取り組める環境を整えていただき、家庭学習が習慣化するように見守っていただけたらと思います。また、たくさんの言葉に触れるために、家族で読書をする時間を設けたり、読み聞かせをしたり、ご家庭でも本に触れる時間を設けていただきたいと思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	61.6	61.1
B 図形	50.9	55.3
C 測定	76.8	78.1
C 変化と関係	42.3	41.1
D データの活用	48.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	52.9	56.0
短答式	57.1	59.7
記述式	57.1	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎各領域とも全国平均に近く、問題形式では、記述式で全国平均を8ポイント以上上回っている。図や式、言葉を使って根拠を明らかにしながら解答することができる。また、無回答がほぼなく、粘り強く問題に取り組んでいる。

●「B図形」領域の立方体の体積を公式を使って求める問題、体積は1cm³のいくつ分で表すという体積の意味を理解しているかを問う問題と帯グラフの割合の読み取りの正答率が低かった。基礎基本の理解や算数用語、公式がしっかり定着していないという結果だった。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3(3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	57.1	44.0
4(1)	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる	67.9	56.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1(1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	62.5	72.7
4(4)	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	67.9	74.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 公式を暗記するのではなく、公式につながる操作や問題を通して、公式ができる過程を丁寧に指導し、理解が深まるような授業内容を工夫します。
- 学習したことを生活の中のいろいろな場面に活かせるような場面を設定したり、自主学習につなげたりすることで算数の問題をより身近なものとして捉え、今後の生活や学習に活用しようという意欲につながるよう支援します。

【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣が身につくような環境づくりや声掛けをしていただけたらと思います。学校通信や学級通信などいろいろな方法で発信される情報を参考にして、家庭学習の習慣化、特に、チャレンジ週間の取り組みに協力していただきたいと思います。
- 生活の中にある算数（重さ、長さ、体積、いろいろな単位など）に、子どもの関心が向くような声掛けをしていただきたいと思います。